

千葉教育

菜

令和元年度
No.660

千葉の子どもたちの未来のために

2 月

特集

教職員の資質能力の向上
～学び合い、高め合う集団づくり～

○シリーズ 現代の教育事情

聖徳大学大学院教職研究科教授
文部科学省総合教育政策局教育人材政策課 企画係長
県教育庁教育振興部学習指導課
県総合教育センター研修企画部

南部 昌敏
石田 一真

○提 言

公益財団法人船橋市公園協会 ふなばしアンデルセン公園長

細谷 順子



千葉県総合教育センター

目次

千葉教育 菜 No. 660

- ◆学校自慢 「可能性は無限大」～主体的に取り組む生徒を目指して～ 流山市立常盤松中学校長 菊岡 義一
- ◆提言 H. C. アンデルセンの精神に学ぶ 公益財団法人船橋市公園協会 ふなばしアンデルセン公園長 細谷 順子…2

シリーズ 現代の教育事情「教職員の資質能力の向上」～学び合い、高め合う集団づくり～

- アンドラゴジーの考え方に基づく教員研修の在り方 聖徳大学大学院教職研究科教授 南部 昌敏…4
- 教師の資質能力の向上について 一質の高い教員採用に向けてー 文部科学省総合教育政策局教育人材政策課企画係長 石田 一真…6
- 信頼される教職員を目指して ～学び続ける環境づくり～ 県教育庁教育振興部学習指導課…8
- 教職員の資質能力の向上に向けた研修 県総合教育センター研修企画部…10

私の教師道

- 学校を創る 学校は誰のために 県立松尾高等学校長 佐藤 晴光…12
- 学校を支える ご存じですか？院内学級 ～国府台病院児童精神科と共に～ 市川市立第一中学校院内学級教頭 青木 良斗…14
- 学校を動かす 主幹教諭として、教務主任として 船橋市立小室小学校主幹教諭 山岸 壘…16
- 子供を知る 初任者研修で学んだこと 匝瑳市立八日市場幼稚園教諭 渡邊 美帆…17
- 子供を知る 初任者研修を振り返って 県立大原高等学校教諭 松川 茜…17
- 授業を創る 学び合いを中心においた算数学習 山武市立成東小学校教諭 佐藤真寿美…18
- 授業を創る 実践的・体験的な学習を通じた技術科における確かな学力の習得を目指して 南房総市立嶺南中学校教頭 押元 和…20

活・研究 長期研修生からの報告

- 小学校編 学びの連続性を図るための指導の在り方ー幼児期の育ちや学びを生かした教科横断的な指導の実践ー 勝浦市立勝浦小学校教諭 吉野 里美…22
- 小学校編 児童の選択・判断する力を育成する小学校歴史学習の構想ー児童が葛藤しながら判断していく学習活動を意図的に設定した単元開発を通してー 流山市立小山小学校教諭（前松戸市立六実小学校教諭） 佐藤 祐介…23
- 中学校編 探究学習が理科の学習意欲に及ぼす影響に関する実践研究ー中学校第1学年「物質のすがた」を事例としてー 大網白里市立大網中学校教諭 篠原 孝司…24
- 中学校編 創造的に音楽と関わり表現する楽しさを実感できる音楽科指導の在り方ー対話的な学びを取り入れた創作活動を通してー 野田市立第二中学校教諭 片岡 憂佳…25

ケーススタディ

- 就学義務と外国籍の児童生徒の就学について 和洋女子大学特任教授 柴内 靖…26

保幼小の連携

- 小学校生活への期待と職員交流 八街市立八街第一幼稚園長 藤田 和子…28

教育の情報化

- 情報活用能力の育成 県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当…29

情報アラカルト

- これからの時代に求められる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントに関する研究～子供たちの主体的・対話的で深い学びを通して～ 県総合教育センターカリキュラム開発部研究開発担当…30
- 幼児教育における研修 ～全ての子供に質の高い教育を～ 県総合教育センター研修企画部…32
- チバミュージアムフェスタ2020「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史 県立中央博物館…33

学校 NOW!

- 先進校の取組 「学び」と「育ち」の連続性で培う9年間～施設分離型小中一貫校の取組～ 周南小中一貫教育校 君津市立周南小学校…34
- 学校歳時記 新しい時代の初等中等教育と小中一貫教育ー将来へのビジョンはー 千葉大学教育学部特任教授 天笠 茂…36
- ◆発信！特別支援教育 「学習障害のある児童生徒への合理的配慮の提供」 県総合教育センター特別支援教育部…38
- ◆千葉歴史の散歩道 いにしへの祭りに思いを馳せる～龍角寺101号墳～ 県教育庁教育振興部文化財課発掘調査班文化財主事 鈴木 彩奈

道 標

全ての教員は、教育を受ける子供たちの人格の完成を目指すという非常に重要な職責を担っている。学校教育の成否は、教員の資質によるところが極めて大きい。時代がいかに変化しようとも、子供たちの成長を担う教員に求められるのは、自らが子供たちの道しるべとなるべく、その資質の向上に常に努めることである。

学校現場を振り返ってみると、教員の大量退職・大量採用による年齢構成や経験年数の不均衡が生じ、経験豊富な教員から若手教員への知識及び技術等の伝達が困難になるなど、教員を巡る環境が激変している。また、グローバル化、情報化の進展等、社会の急速な変化を踏まえた新しい時代に対応できるよう、学習指導要領が改訂され、学校では、その趣旨実現のため、教員の資質能力の向上に向けた環境を整えることが求められている。

こうした状況を踏まえ、平成29年に教育公務員特例法の一部が改正され、「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上

に関する指標の策定に関する指針」が文部科学省より告示された。千葉県は、「信頼される質の高い教員の育成を目指して」を目標として「千葉県・千葉市教員等育成指標」を策定した。指標は、教員等が教職生活全体を俯瞰しつつ、自らの職責、経験及び適性に応じて更に高度な段階を目指す手掛かりとなるよう策定されている。この指標を受け、「教員研修計画」が策定され、令和2年度には、個人で研修を申し込み、受講履歴の管理が可能となる「研修履歴システムAsttra（アストラ）」が全面運用される。

一方、「教員は学校で育つ」とは、過去より現在に至るまで言い続けられてきた言葉である。その時代の背景や要請を踏まえて、学校現場では様々な工夫と試行錯誤が繰り返されてきた。本稿では、学び続ける教員一人一人を支えるために、「学び合い、高め合う集団」をいかに構築していくか、幅広い視野から考えていきたい。